

心臓財団 季報

No.179

Tel 03-3201-0810

Fax 03-3213-3920

財団法人日本心臓財団

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル835区-A

e-mail:info@jhf.or.jp

http://www.jhf.or.jp/

MAY 10, 2005

平成17年度の事業計画を決定

第47回評議員会・第108回理事会にて

3月29日、東京の銀行倶楽部にて第47回評議員会および第108回理事会が開催され、平成17年度事業計画、収支予算について審議し、評議員会において承認され、理事会において可決しました。事業概要は以下のとおりです。

I. 研究助成事業

A. 個別研究助成

1. 第31回日本心臓財団研究奨励の実施
[奨励額：1件100万円を10件]
2. 第3回日本心臓財団若年研究者研究奨励(藤基金)の実施
[奨励額：1件100万円を2件]
3. 第3回日本心臓財団動脈硬化Update研究助成の実施
[助成額：200万円を1件と100万円を2件]
4. 第13回日本心臓財団・ファイザー高血圧・高脂血症と血管代謝研究助成の実施
[助成額：100万円を5件と40万円を10件]
5. 第11回日本心臓財団・ファイザー心血管病研究助成の実施
[助成額：250万円を4件と50万円を8件]
6. 第1回日本心臓財団・ノバルティス循環器分子細胞研究助成の実施
[助成額：1件100万円を10件]

B. 賞関係

1. 第31回日本心臓財団佐藤賞の贈呈
2. 第70回日本循環器学会若年研究者奨励賞への助成
3. 第30回日本心臓財団草野賞の贈呈
4. 第20回日本心臓財団予防賞の贈呈
5. 第1回日本心臓財団小林太刀夫賞の贈呈
6. 第10回日本心電学会学術奨励賞の後援

C. 班研究助成

1. 心筋梗塞後の心血管イベント発生に関する研究
2. J-CAD study (虚血性心疾患疫学調査研究)
3. 低リスク安定労作狭心症に対するインターベンション

療法の“長期予後”に関する無作為介入試験

4. 肺塞栓症研究会共同研究
5. 心筋梗塞後のスタチン薬投与による心血管イベント抑制に関する研究 (MUSASHI-AMI)
6. 冠動脈形成術後の心血管イベント抑制に関する研究
スタチンによる脂質低下療法の効果 (MUSASHI-PCI)
7. 特発性心室細動研究 (J-IVFS)
8. ウツタイン様式を用いた関東地方院外心停止患者に対する多施設共同研究 (SOS-KANTO)
9. 心房細動の薬物療法に関する多施設共同無作為化比較試験 (J-RHYTHM)
10. 慢性心不全治療確立のための大規模臨床試験に関する研究 (J-CHF)
11. 心室細動・心室頻拍患者におけるアミオダロンと植込み型除細動器の併用効果の検討
12. 北海道心血管研究会 臨床試験1『急性心筋梗塞症例に対するHMG-CoA還元酵素阻害薬の効果に関する多施設共同無作為化比較試験』
13. 高血圧患者におけるプラバスタチンの糖尿病発症抑制作用の研究
14. 日本心臓血管外科手術データベース
15. 名古屋急性心筋梗塞研究 - 1
16. トリグリセライドに富むリポ蛋白(トリグリセライドリッチリポ蛋白)と心血管病に関する臨床研究
17. 費用対効果からみた拡張期心不全の治療戦略の検討
18. 慢性心不全患者に対する薬物治療に関する実態調査
19. 冠攣縮性狭心症の治療に関する研究
20. 脳血管疾患・心疾患に伴う血管イベント発症に関する全国実態調査

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 21. アンジオテンシン 受容体拮抗薬 (A 拮抗薬) で降
圧不十分な糖尿病を伴う高血圧症患者に対するカルシ
ウム拮抗薬追加併用群とA 拮抗薬増量群の無作為割
付比較試験 22. 治療中高血圧患者における早期高血圧管理の臓器障害
抑制に関する研究 23. インスリン抵抗性改善による心筋梗塞再発予防に関す
る大規模薬剤介入試験 24. 心不全症例(腎不全症例も検討)におけるアンジオテンシ
ン受容体拮抗薬(ARB)の心臓 腎臓 組織内分泌への効果 | <ul style="list-style-type: none"> D. 留学助成 1. 第19回日本心臓財団・バイエル薬品海外留学助成の実施
[助成額: 1件300万円を10件] 2. 東京海上による海外研究者研修助成の実施
[助成額: 1件最大80万円で総額500万円] 3. 第2回日本心臓財団「Cardiac Rhythm Management」
短期海外研修助成の実施
[助成内容: 欧州研修先までの渡航費および滞在費] 4. 第1回日本心臓財団・日本心電学会海外留学助成の
実施
[助成額: 1件200万円を2件] |
|---|---|

II. 学術活動・会議助成事業

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 第27回美甘レクチャー(日本循環器学会特別招待講
演)への助成 2. 第18回日本循環器病予防セミナーの開催 3. 第64回日本医学放射線学会学術集会 4. 第26回日本心血管インターベンション学会関東甲信
越地方会 5. 第82回日本生理学会大会 6. 第40回日本循環器管理研究協議会総会・日本循環器
病予防学会
第70回生活習慣病予防講演会 7. 第196回日本循環器学会関東甲信越地方会 8. 第134回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 9. 第47回日本老年医学会学術集会 10. 第14回日本心血管インターベンション学会学術集会 11. 第25回ホルター心電図研究会 | <ul style="list-style-type: none"> 12. 第41回日本小児循環器学会総会・学術集会 13. ADATARAライブデモンストレーション2005 14. 第37回日本動脈硬化学会総会 15. TOPIC 2005 16. 第5回日本心血管カテーテル治療学会学術集会 17. 第14回日本集中治療学会関東甲信越地方会 18. 第28回日本高血圧学会総会 19. 第4回秋田PCIライブ 20. 第5回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2005 in
横浜 21. 第9回日本心不全学会学術集会 22. 第1回日中心血管フォーラム 23. 第4回田原 - アショフシンポジウム 24. 第3回日本予防医学会学術総会 25. 第70回日本循環器学会総会・学術集会 |
|--|---|

III. 広報啓発事業

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 日本循環器学会との協力事業 <ul style="list-style-type: none"> 1) 病院掲示用壁新聞ハートニュースの発行 2) 一般向け情報誌「健康ハート」の発行 3) 市民公開講座の開催 2. 予防啓発小冊子の発行 3. 「健康ハートの日」活動 <ul style="list-style-type: none"> 1) 8月10日キャンペーン 2) 広報活動 ポスターの製作配布等 4. 世界禁煙デー記念シンポジウムの開催
たばこと健康問題NGO協議会としての活動 5. 日本心臓財団メディアワークショップの開催 6. 第6回エコー・ウォーカーソン2005における啓発活動 | <ul style="list-style-type: none"> 7. インターネット「心臓財団のページ」関連広報活動
http://www.jhf.or.jp/ 8. 世界心臓連合加盟団体としての諸活動 9. 予防活動団体への協力 10. 日本心臓ペースメーカー友の会事業への協力 11. 日本川崎病研究センター事業への協力 12. トーアエイヨー(株)によるラジオNIKKEI「心臓財団
虚血性心疾患セミナー」 13. 月刊医学雑誌「心臓」の発行 14. 機関紙の発行 |
|---|--|

日本心臓財団・ノバルティス循環器分子細胞研究助成を開始

循環器疾患の予防法・治療法を創出するためには、病態の発生機転を理解することが必須であり、近年解明手法として分子細胞生物学的手法が用いられ、独創的かつ先駆的な業績が報告されています。さらに循環器疾患を克服するためには、本分野の研究を発展・向上させることが必要であります。そこで当財団ではこのたびノバルティス ファーマ株式会社の協力を得て、循環器領域における分子細胞生物学的研究の進歩に著しい貢献が期待される少壮研究者の育成のために研究を奨励するうえで、日本心臓財団・ノバルティス循環器分子細胞研究助成を開設し、第1回を実施いたします。

1. 研究奨励金および応募資格

わが国に在住し、心臓血管病の基礎、臨床または予防に携わる研究者

1) 第31回日本心臓財団研究奨励

1件100万円を10件

40歳未満の研究者(1965年4月1日以降に生まれた者)

2) 第3回日本心臓財団若年研究者研究奨励(藤基金)

1件100万円を2件

30歳未満の将来性のある若手研究者

(1975年4月1日以降に生まれた者)

2. 応募期間

平成17年5月9日～7月15日

平成17年度日本心臓財団研究奨励募集

心臓血管病(心臓病、脳卒中、高血圧、動脈硬化症等)の成因、治療あるいは予防に関する独創的研究に対し行います。

1. 研究奨励金および応募資格

わが国に在住し、心臓血管病の基礎、臨床または予防に携わる研究者

1) 第31回日本心臓財団研究奨励

1件100万円を10件

40歳未満の研究者(1965年4月1日以降に生まれた者)

2) 第3回日本心臓財団若年研究者研究奨励(藤基金)

1件100万円を2件

30歳未満の将来性のある若手研究者

(1975年4月1日以降に生まれた者)

2. 応募期間

平成17年6月1日～7月15日

第3回日本心臓財団動脈硬化Update研究助成募集

「動脈硬化」は、脳卒中、心臓疾患、糖尿病等と関連が深く、高齢化が進む今日、これらの予防、治療はますます重要となり、動脈硬化研究の一層の進展と少壮研究者の育成に努めるうで行います。

動脈硬化領域における基礎、臨床、疫学に携わる研究者に助成します。

1. 研究助成金

200万円を1件と100万円を2件

2. 応募資格

1) 年齢：1965年4月1日以降に生まれた者

2) 施設：臨床教室及びそれに準ずる施設

3) ただし、次の事項に該当する者は応募できない。

・同一研究テーマで他の助成を受けた者

・研究発表会(9月3日(土))当日に口演不可能な者

・前年度の助成対象者

4) 海外での業績については応募除外(国内のみ)とする。

5) 原則として日本国内の研究施設に所属する者に限る。

3. 応募締切日 平成17年5月31日

日循協・第70回生活習慣病予防講演会 ～生活習慣と高血圧～

日時：平成17年5月28日(土)15:00～17:30

会場：横浜市開港記念会館・講堂

定員：250名

参加料：無料(当日先着順)

1. 高血圧の遺伝要因と環境要因

梅村 敏(横浜市立大学大学院医学研究科病態制御内科学教授)

2. ライフスタイルと高血圧

河野 雄平(国立循環器病センター高血圧腎臓内科部長)

3. 地域における高血圧予防

磯 博康(筑波大学社会医学系社会健康医学教授)

4. 日本高血圧学会減塩キャンペーンについて

上島 弘嗣(滋賀医科大学福祉保健医学教授)

第20回日本心臓ペースング・電気生理学会学術大会 市民公開講座 ～知って安心、心臓病のお話～

日時：平成17年5月29日(日)13:00～17:00

会場：宝塚ホテル新館A会場(宝寿の間)

定員：650名

参加料：無料(当日先着順)

1. 心臓病、こんな症状は要注意

杉本 恒明(東京大学名誉教授・関東中央病院名誉院長)

2. もし、狭心症・心筋梗塞と言われたら

川田 志明(慶應義塾大学名誉教授・山中湖クリニック画像診断センター長)

3. 不整脈ってどんな病気?

森 博愛(徳島大学名誉教授)

4. 不整脈、質(たち)の善いもの悪いもの

下村 克朗(国立循環器病センター元病院長・大阪回生病院顧問)

5. 心不全とはどんな病気?

木全 心一(東京厚生年金病院院長)

6. 心臓移植のはなし

北村 惣一郎(国立循環器病センター総長)

日本の循環器病予防学発展の恩人 - スタムラー教授

スタムラー先生(Jeremiah Stamler)は、一度お会いしたら忘れられない印象を与える。米国人としては短躯ながら、眼光は心の奥底まで見透すような鋭さの中に優しさを湛え、荘重な声には独得の響きがあり、ご講演からは予防医学への確信と情熱が伝わってくる。両股関節とも人工関節置換をされたため杖を使って歩かれてはいるが、ファイトの固まりのように見える。常に付き添って献身的な補佐役であった故ローズ夫人(Rose Stamler)とご一緒のお姿が臉に焼き付いている。来日の際に、出迎えの人たちが歩行が不自由そうな先生の荷物を持つとすると、何時も「私はどこも悪いところはないし、ヒーロー(hero)でもないのだよ。」と断られて、ポーターをお呼びになる。友人とのつきあいに上下差を持ち込まないように気を遣われる先生であった。

ここにスタムラー先生のご活動の一部をご紹介しますのは、先生は日本の循環器疾患疫学の水準を高め、そこで生まれる知識を、直ちに脳卒中、心臓病の予防活動に結びつける学問研究の実践のあり方を身をもって示され、わが国の循環器疾患疫学・予防学発展期の教育、普及に貢献された恩人であることを忘れてはならないとの思いからである。

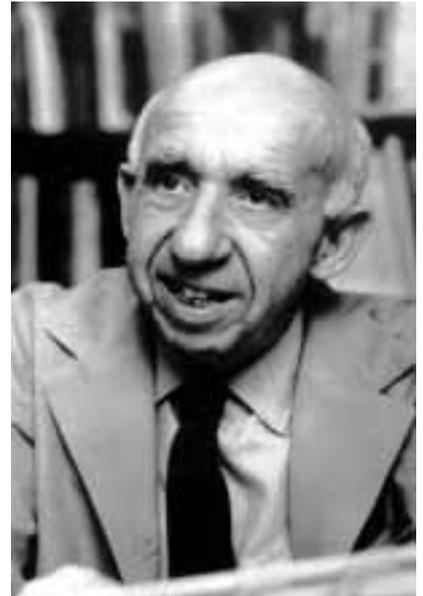
脳卒中、心臓病が生活習慣の改善によって予防できる事実は今でこそ国民の間に常識化しつつあるが、1960年代には医師の間にも予防の重要性は認識されていなかった。

先生は健康増進、疾病予防の国際的中枢である世界保健機関WHOに働きかけて、その支持の下に、世界の循環器病学者の連合体である国際心臓連合の疫学・予防委員会の責任者として、国際的な専門教育事業「循環器疾患の疫学と予防に関するテンデー国際教育セミナー」実施を発案された故アンセル・キース博士(Ancel Keys)に賛同され、シカゴのノースウェスタン大学での研究、教育の本務を超えてこの国際教育事業に挺身し、発展させられた。

1968年に始まったこの国際教育研修セミナーは、すでに40回に垂んとするはずであるが、国際協力下に毎年方々の国で開催されて、各国で循環器疾患予防に使命感を持つ研究指導者を輩出する源泉の一つになっている。わが国からも毎年のようにこのセミナーに人材が参加し、日本の循環器疾患の疫学や予防医学の有力な指導者、活動家が育っている。この第16回国際セミナー(1983年)の日本での開催を当時国際心臓連合疫学・予

防委員会委員であった私に打診された。日本心臓財団、日本循環器学会がホストとなり、その他多くの方々、団体のご協力を頂いて富士裾野の富士教育研修所を会場に選定、世界33カ国から38名の俊秀を迎えて第16回セミナーが日本で開催された。スタムラーご夫妻のセミナー運営や個々の研修生への気配りを目の当たりにして先生への敬慕が益々深まった。この国際セミナー主催を契機としてわが国でも、1988年から毎年5日間の「日本循環器病予防セミナー」が国内各地で開催される運びができ、若手研究者育成の柱の一つになっている。この成功から2年後に同様の趣旨の「保健・栄養指導のための循環器疾患予防セミナー」が日本循環器管理研究協議会によって保健師、栄養士のために新設され、毎年開催、活動家養成に貢献している。

ここで先生の予防医学のバイオニアとしての歩みを若干紹介したい。先生は医学部卒業当時から現在もなお人類が直面する最大の死因である心臓病の制圧に関心を抱き、その発生条件となる動脈硬化の成因を探るネズミの実験から、コレステロールが多い食物が有力な原因であることを確認された。ウェスタン電気会社(Western Electric Co.)シカゴガス会社(Chicago Gas Co.)の従業員の健康管理と疫学調査結果から、食生活や運動不足がヒトの動脈硬化の有力な原因であることを実証し、その知識を予防のための教育に向けて、国際心臓連合の予防委員長として精力的に研究と教育活動を推進した。2001年に大阪で開かれた第5回国際循環器病予防会議も、スタムラー先生らを中心とする国際心臓連合疫学・予防委員会の肝入りで1989年に創設された国際会議である。先生は第5回会議の組織委員でもあったが、その冒頭の会長講演に続いて「世界の循環器疾患死亡率及びリスクファクターの動向と21世紀のための予防戦略」について展望された。先生お得意の主題であり、『21世



紀に必要な努力について世界的視点から語る壮大な発表(magnificent presentation)』と評された。先生は1985年のノーベル平和賞を受賞した核戦争防止国際医師の会(International Physicians for the Prevention of Nuclear War)の創設以来の会員でもある。先生は研究方法に厳しい科学者であると同時に、予防戦略の指導者、予防思想の伝道師であり、世界の人々の健康破壊と戦う姿勢を貫かれている。

先生のご講演は英語圏以外の人々にも分かり易い英語をと気遣いながら、ご自身の仕事を含む研究成果を、国際的に見た研究展開の歴史に乗せて諄々と語られ、非常に分かり易い。残された次の課題も明瞭に指摘される。その一つが「インターソルト(INTER-SALT)で、我々の生活の中で食塩摂取が本当に、またどの程度血圧上昇の原因になっているかを確認するための国際共同研究であった。わが国でもベテラン疫学者が参加して、その実際を明らかにした。その続編として先生は栄養成分と血圧の関係に研究の鋒先を向けたインターマップ(INTERMAP)の牽引役として活躍中である。先に紹介した大阪の国際循環器病予防会議でも先生を中心に「インターマップ」の招待国際シンポジウムが開催され、注目を呼んだ。このような国際ないし国内共同研究の組織化に先生が原動力になって果たされた役割は大きい。

私が感動した最近のエピソードをお伝えしてご紹介を終わる。無作為対照試験の模範事例として国際疫学雑誌に再掲された論文、英国の泰斗ウォルター・ホランド先生(Walter W. Holland)の見事な疫学調査研究の企画、遂行、そして結果の分析と解釈に対して求められたコメントで米国における実践の経験から果敢な批判を展開されたことである。1960年代米国の保険会社カイザーヘルスプランが検診によるリスクファクター発見、発見された高リスク者への教育と予防的治療によって心臓病の発生及び死亡を減少できたという報告が出て以来俄かに検診事業が国際的な注目を浴びた。しかしながらホランド先生は、英国でこれを実施した場合にどのような成果が得られるかを巧みな疫学調査を立案し、9年間にわたる追跡結果から、国営医療の第一線担当者である一般医による検診実施は成果がほとんど無いことを実証した。私は1977年に発表された原著を読んだ当時、この論文の方法論の見事さ、論証の堅固さ、国政を動かす力を持つ学問に感銘した。一見非の打ち所のないこの研究論文を24年後再掲する機会にコメントを求められたスタムラー先生は、一度や二度の検診が無効であることは検診事業の無効を意味しない。検診の結果に基づ

いてその後に展開される予防活動こそが予防効果を上げるのであり、ホランド先生の研究は予防活動無しの検診実施の実験に過ぎないことを論証し、明示された。わが国の検診の進め方についても思い当たるフシがあるのでなかろうか。先生の予防活動への真摯な取り組み姿勢と情熱を文章から汲み取ることができ、感激を新たにした。85歳になられる先生はこの5月、ブラジルのイグアスで開催される第6回国際循環器病予防会議にも基調講演者として招待され、ドイツの大病理学者ウイルヒョウ先生(Rudolph Virchow)の「集団発生する病気は人類文化の障害が原因となって起こる」という説をさらに深めて一般化し、その意義について述べると聞いた。ご参加の方々には先生の迫力あるスピーチをぜひ聴かれることをお勧めしたい。

先生のこれまでの多大なご活躍を記念して、先生が長らく教鞭を執られたノースウェスタン大学(Northwestern University)に先生のお名前を冠した記念講座を設立しようという企画が、後継者であるグリーンランド教授(Philip Greenland)から届いている。わが国の循環器疾患疫学・予防医学の今日の隆盛の育ての親としての先生のお力添えは大きかった。私個人としては、この企画に賛同し、貧者の一灯を捧げたいと思う。しかし日本の賛同者が個別で送金しようとすると、折角の寄付が外貨送金手数料などにかかなりの額が消費されてしまうのが残念である。そこで心臓財団などを窓口に一〇〇ドル程度の寄付を募って、集合カンパとしてお世話になった日本人関係者の謝意を表してはどうかと考えた。日本心臓財団をはじめ、スタムラー先生を讃えるこの趣旨に賛同する日本の皆様方にご検討をお願いしたい。(元日本心臓財団評議員・元国立公衆衛生院疫学部長 旗野脩一)

この趣旨に賛同されます方は、日本心臓財団がお預かりし、取りまとめて送金しますので、下記の郵便振替口座をご利用下さい。

- ・郵便振替口座 00140-3-173597
- ・加入者名 財団法人日本心臓財団

振替用紙の通信欄に「スタムラー先生記念講座開設基金」とお書き下さい。

受付締切は平成17年6月30日とさせていただきます。なお直接送金したい方は日本心臓財団までご一報下さい。

日本心臓財団小林太刀夫賞を創設 第1回に久山町健康福祉課保健師グループが受賞

当財団では日本循環器管理研究協議会の協力を得て、同協議会初代理事長の名を冠した日本心臓財団小林太刀夫賞を創設し本年度より実施することとしました。

これは地域と密着して、循環器病を中心とした生活習慣病予防のために永年貢献し、生活習慣等の改善により疾病管理に実効を挙げた活動、あるいは予防のための創意工夫により将来において疾病管理の実行が期待できる活動を展開中の保健師、看護師、栄養士の

個人または団体に贈られます。

その第1回に地域住民における生活習慣病予防と健康増進への取り組みに永年にわたり貢献された久山町健康福祉課保健師グループ(角森輝美、河邊シカノ、和田紀子、物袋由美子、稲永みき、持松可奈子:敬称略)が選ばれました。

第20回日本心臓財団予防賞とともに来る5月27日、第40回日本循環器管理研究協議会総会において授与され、賞牌ならびに50万円が贈られます。

第20回 日本心臓財団予防賞

菊池 健次郎 教授が受賞

第40回 日循協総会にて



日本心臓財団予防賞は、地域社会に密着し、循環器疾患予防に永年貢献もしくは学術研究開発に功績のあった団体あるいは研究者を対象に贈られるものです。今回は旭川医科大学第一内科学の菊池健次郎教授が選ばれました。受賞研究は、「端野・壮警町研究の立ち上げとその後の医学部学生における生活習慣病危険因子対策の推進」で、来る5月27日、横浜情報文化センターで開催される第40回日本循環器管理研究協議会総会(会長: 朽久保修横浜市立大学医学部公衆衛生学教授)において授与式が行われ、賞牌ならびに50万円が贈られます。

第30回 日本心臓財団 佐藤賞

福田 恵一 博士が受賞

第69回 日本循環器学会総会・学術集会にて



日本心臓財団佐藤賞は、当財団の故佐藤喜一郎初代会長を記念して設けられたもので、近年循環器領域で顕著な業績をあげ、今後もこの分野で中心的な役割を果たすことが期待される50歳未満の研究者1名に贈られるものです。日本循環器学会会長を委員長とする選考委員会において選考され、今回は慶應義塾大学医学部呼吸循環器内科の福田恵一講師に決定しました。

第69回日本循環器学会総会・学術集会(会長: 山口徹虎の門病院院長)会期中の3月20日にパシフィコ横浜にて授与式が行われ、当財団の杉本恒明副会長より賞牌ならびに100万円が贈呈されました。研究課題は、「再生心筋細胞の開発および心肥大形成の分子機構の解明」で、同学術集会において受賞記念講演が行われました。

第29回 日本心臓財団 草野賞

藤本 茂 博士が受賞

第30回 日本脳卒中学会総会にて



日本心臓財団草野賞は、当財団の故草野義一初代理事長を記念して設けられたもので、その1年間に脳血管障害に関する学術雑誌に掲載された40歳未満の研究者の論文に対し贈られるものです。今回は国立病院機構九州医療センター脳血管センター脳血管内科の藤本茂氏に決定しました。

第30回日本脳卒中学会総会(会長: 東儀英夫岩手医科大学名誉教授)会期中の4月21日に岩手県民会館にて授与式が行われ、東儀会長より賞牌ならびに50万円が贈呈されました。受賞論文は、「造影経頭蓋カラードプラーによる頸動脈内膜剥離術後の過灌流症候群の診断」でした。

日本心臓財団・ファイザー心血管病研究助成対象者決定

当財団ではファイザー株式会社の協力を得て、循環器学の発展と40歳未満の少壮研究者の育成のための第9回および第10回心血管病研究助成を実施しました。

第9回の研究テーマは「心血管細胞の分化・肥大・アポトーシス・再生 - 基礎から臨床まで - 」で、昨年33名の応募者によるポスター発表の中から12件が選考され、本年2月26日、東京・灘尾ホールにおいてその12名(内1名欠席)による口演発表をもとに4件が選考されました。助

成金はそれぞれ200万円です。

今回第10回の研究テーマは「急性冠症候群の発生機序 - 臨床・病理・分子生物学的アプローチ - 」で、20件の応募があり、同日同会場にてポスター発表による自由討議を行い、12件が選考されました。助成金はそれぞれ50万円。さらに来年2月開催の研究発表会でこの12件から4件を選考しそれぞれ200万円を助成します。

第9回 助成対象者

(五十音順・敬称略・助成金額は各200万円・年齢は昨年応募時)

番号	氏名	所属	研究課題
1	杉山 正悟 (40歳)	熊本大学大学院 医学薬学研究部 循環器病態学	ヒト血中に存在する内皮細胞由来微小粒子(microparticles)の血管内皮細胞障害マーカーとしての有用性と臨床的意義の検討
2	鷹羽 浄顕 (39歳)	京都大学大学院 医学研究科 器官外科学 心臓血管外科	冠状動脈等微小血管病変に対する血管吻合術不要の新術式「バイオバイパス」の確立
3	真鍋 一郎 (39歳)	東京大学大学院 医学系研究科 医療ナノテクノロジー人材養成ユニット	平滑筋分化機構の解明と治療応用
4	宮川 繁 (35歳)	大阪大学大学院 医学系研究科 臓器制御外科学	細胞シートを用いた心筋組織移植による新しい心不全治療法の開発

第10回 助成対象者

(五十音順・敬称略・助成金額は各50万円)

番号	氏名	所属	研究課題
1	大久保 宗則 (33歳)	岐阜大学大学院 医学研究科 再生医科学循環病態学	有意狭窄病変におけるリスクファクターと冠動脈組織性状 - integrated backscatter intravascular ultrasoundによる検討 -
2	小野 弘樹 (32歳)	九州大学大学院 医学研究院 循環器内科	血管壁細胞のアポトーシスにおけるMst1の役割の分子生物学的解析
3	海北 幸一 (38歳)	熊本大学大学院 医学薬学研究部 循環器病態学	急性冠症候群の成因における分子生物学的アプローチ
4	国枝 武重 (33歳)	千葉大学大学院 医学研究院 循環病態医科学	アンジオテンシン は血管老化を促進する - 抗老化による急性冠症候群へのアプローチ -
5	小谷 順一 (34歳)	関西労災病院 内科・循環器科	急性冠症候群の発症機序 - 炎症性細胞の免疫学的動態から見た検討 -
6	小林 一貴 (33歳)	千葉大学大学院 医学研究院 細胞治療学	TGF-β-Smad3シグナルの欠損はプラーク病変を著しく増大・不安定化する
7	坂田 泰彦 (38歳)	大阪大学医学部 付属病院 循環器内科	急性冠症候群発症規定因子の検討 - 疫学から臨床へ
8	白木 里織 (31歳)	神戸大学大学院 医学系研究科 循環呼吸器病態学	虚血性心疾患のリスクファクターとしての単球Toll-Like Receptor4発現の意義 - 新たなrisk markerとしてのTLRの可能性
9	新藤 隆行 (39歳)	信州大学大学院 医学研究科 臓器発生制御医学	アドレメデュリンによる血管再生機序の解明と、虚血、浮腫、腫瘍治療への展開
10	竹田 征治 (32歳)	奈良県立医科大学 第1内科	急性心筋梗塞におけるPIGF発現は、末梢血単核球分画の動員を介して慢性期の心機能の改善に寄与する
11	東 智仁 (25歳)	京都大学大学院 医学研究科 循環器内科学	急性冠症候群の引き金である血小板活性化機構に関する基礎研究
12	広野 晁 (37歳)	新潟大学大学院 歯学総合研究科 器官制御医学 循環器分野	冠動脈におけるHSP60産生量を用いた虚血性心疾患の予後の推定

海外からの研究者に対する助成

日本心臓財団では循環器疾患の研究分野において ASEAN 諸国等の研究者の来日に対し、東京海上による海外研究者研修助成を実施しています。

このたび次の方に助成しました。

- 第69回日本循環器学会総会・学術集会に参加発表
16名 各10万円
平成17年3月19日～21日
- インドネシア**
- Hamed Oemar氏、Anna Rahayoe氏、
Aulia Sani氏、Bambang B. Siswanto氏
- マレーシア**
- Hwee M. Cheng氏、See-Ziau Hoe氏
- フィリピン**
- Marie Antoinette B. Abao氏
- タイ**
- Srun Kuanprasert氏、Arintaya Phrommintikul氏、
Wanwarang Wongcharoen氏、
Wattana Wongtheptian氏
- バングラデッシュ**
- Arifur Rahman氏、Gouranga K. Saha氏、
Abu T. Shah氏
- インド**
- Shamanna S. Iyengar氏
- ネパール**
- Prahlad Karki氏

- 第3回国際留学生Young Investigator's Award
アジアから日本に留学している若手研究者を対象に第69回日本循環器学会総会・学術集会での発表

- 最優秀賞 Suko Adiarto氏 20万円
(神戸大学大学院医学系研究科循環呼吸器病態学：インドネシア)
- 優秀賞 陳学海氏 10万円
(岐阜大学大学院医学研究科再生医科学循環病態学：中国)
- 劉 慧氏 10万円
(新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器学：中国)
- 孫 新氏 10万円
(大阪大学大学院医学系研究科加齢医学：中国)

あとがき

平成17年度は新たに個人に対する研究助成と賞がそれぞれひとつずつ事業に加わりました。最近では生活習慣病に対する国民の関心も高まっており、その予防の重要性が認識されるようになりました。当財団としては予防啓発事業にこれまでに増して力を注いでまいります。

平成15年度よりメディアに最新情報や正しい知識を伝えることで、メディアから国民に情報を広く発信していただく事業を始めました。次は食事、栄養面から健康問題に取り組んでいく予定ですので、関係各位のご協力をお願いいたします。(T.M)

ご支援ありがとうございます

当財団へのご寄付

次の方からご寄付を頂戴しました。ここにご芳名を記して感謝の意を表します。(2005年2月～2005年4月)

屋代 芳郎 様	茨城県西茨城郡	10,000円
佐藤 信宏 様	茨城県水戸市	5,000円
株式会社アクセル 様	東京都千代田区	2,000,000円
福山 尚哉 様	福岡県北九州市	300,000円
匿名	広島県三次市	3,000円
岡崎 哲也 様	東京都世田谷区	80,000円

当財団をご支援下さる方

本年度もご支援をいただいた方のご芳名を掲載します。

(敬称略：2005年2月4日～4月25日)

- 阿部 圭志 大槻 俊輔 東崎 喜代乃
道場 信孝 橋本 勉

心臓財団からのお願い

～ご寄付ならびに賛助会ご加入～

当財団が循環器疾患の予防・制圧事業を展開するうえで、その多くは寄付金ならびに賛助会費により支えられております。あなたのまわりの方にもぜひ呼びかけてください。

ご寄付はいくらでも受けさせていただいております。当財団は「特定公益増進法人」として認可を受けておりますので、税制上の優遇措置が講じられております。

賛助会は日本心臓財団の目的に賛同し、その働きを支援する方々、法人によって構成されています。賛助会費は、個人の場合、年額1万円、法人の場合は5万円で何口でも差し支えありません。

ご支援いただける場合は、下記の口座をご利用ください。

郵便振替口座 00140-3-173597
宛て先 財団法人日本心臓財団



お近くにお越しの際はお立ち寄り下さい。